

# 県外派遣審判員報告書

作成日 2017年 8月 14日

|     |                       |     |                       |
|-----|-----------------------|-----|-----------------------|
| 大会名 | 第47回九州中学校バスケットボール競技大会 | 会場  | 福岡市民体育館・春日市総合スポーツセンター |
| 期間  | 8月8日(火)～8月10日(木)      | 報告者 | 川井 剛(中体連)             |

## スケジュール

| 期日              | 内容            | 場所            |
|-----------------|---------------|---------------|
| 8月8日(火) 17:00～  | 審判会議・レクチャー    | 春日市総合スポーツセンター |
| 8月9日(水) 16:40～  | 第6試合【西福岡VS宮崎】 | 福岡市民体育館       |
| 8月10日(木) 12:40～ | 女子決勝【折尾VS三股】  | 春日市総合スポーツセンター |

## レクチャー・審判会議の内容

### 【森田氏より】

**コーチの協力について**・・・中学校の大会では、コーチと顧問がいるので、『サインをした方がコーチ、そうでない方がアシスタントコーチ』ということで共通理解。コーチの権限、アシスタントコーチの権限を今一度確認を。

**ガイドラインの徹底について**・・・ガイドラインをもとに判定をする旨を代表者会議にて報告済み。

**マンツーマンディフェンスの推進について**・・・マンツーマンか否かはコミッショナーが判定する。レフリーは旗の確認。ベンチはコミッショナーの判定に関していかなるクレームもしてはならない。また、残り2分を切ったの赤旗(一発テクのケース)に関しては、ボールデッドにならなかった場合は、点差によって適応の仕方が異なる。

### 【福岡氏より】

・一回戦から決勝戦まで同じ判定基準で大会が行われること。そのために、ガイドラインを共通理解し、全審判員が表現すること。また、ルールを正しく理解し、適応すること。

(例①)後半、TOを既に3回請求していたが、誤って請求をしてしまい、ブザーが鳴ってしまったときの対応は？

(例②)スコアシートに記載されている番号と異なった番号で選手が出てきた。開始前、ゲーム中、それぞれの対応は？

(例③)ファイトングが怒った際のスローインの場所は？

・ルールだけで判定はできない。それぞれのチームがどのようにバスケットを展開しているか、キープレーヤーは誰か、点差はどうか、残り時間はどうか、など様々なことを感じ取りながらルールに基づいて判定することを心がける。そのためにも、プレカンの中で両チームの情報交換を密に行うこと。そのことで、予測が立てやすくなり、見るべきポイントを見逃さないことにつながる。

|    |      |                  |    |    |           |
|----|------|------------------|----|----|-----------|
| 実技 | 割り当て | 男子2回戦【西福岡 vs 宮崎】 | 主審 | 相手 | 岸川(長崎県)B級 |
|----|------|------------------|----|----|-----------|

### ○ゲーム前(プレカンファレンス)

両チームの特徴についての確認、ガイドラインの確認、TO管理について、マニュアルについての確認を行った。ガイドラインを見ながら確認をした。

### ○ゲームの実際

第一ピリオドの早い段階で西福岡の悪い手の使い方について判定をしたが、判定しきれない部分もあり、後手にまわってしまったところがあった。ゲーム序盤で点差が開いたため、宮崎についてはできるだけバスケットをさせるような判定を心がけた。ゲームを通して、もっと自分の判定を笛で示すべきだったと感じた。

### ○ゲーム後(ポストカンファレンス) 主任 千原氏(大分県)B級

トレイル側から始まるプレーに対して、ゲームを通してクロスステップやペネトレイトがしっかりとできており、良かった。二人の協力の中で、6番エリアが課題だと感じた。早い展開で6番にボールが入った際、どちらのレフリーも遠い瞬間が何度もあり、リードからのクロスコールでベンチが納得していないケースがあった。お互いの位置を把握して、自分の位置取りを工夫したり、インターバルで確認したりすることも必要だと感じた。

|    |      |                 |    |    |           |
|----|------|-----------------|----|----|-----------|
| 実技 | 割り当て | 女子決勝戦【折尾 vs 三股】 | 副審 | 相手 | 福岡(長崎県)S級 |
|----|------|-----------------|----|----|-----------|

### ○ゲーム前(プレカンファレンス)

自分のプライマリーを大事にすること。相手のプライマリーを意識しないこと。二人の約束事として、リードが右に渡った際にも、トレイルから始まったプレーはトレイルのプライマリーとしてしっかり判定すること。また、長く見たプレーを判定すること。ぱっと見て判断ではなく、長く確認したものを判定すること。

### ○ゲームの実際

決勝戦ということで、今までとは少し違った緊張感があった。立ち上がりは大きな現象もなく、淡々とゲームが進んでいった。その中で、福岡氏が折尾のイーガルスクリーンと三股のポストの手を吹かれた。ガイドライン通りだと、見ていて思った。自分も同じような三股のスクリーンを、割と簡単に吹くことができた。

ゲームの中で、福岡氏から「判定する中で、その判定に対して『理由』をできるだけたくさんつけられるとよい」とアドバイスをいただいた。序盤から折尾が点差を広げた展開の中で、三股のキープレーヤーである4番と11番にどのようにファウルをつけていくか。福岡氏の判定に合わせて、自分も頭をフル回転させながら判定することを心がけた。最終的には11番は退場したが、4ピリノ残り5分頃までプレーをし続けた。

今までは確かに、「当たったから／手が触れていたから」という判定が多かった気がするが、福岡氏のおっしゃるように、「どのマッチアップで、その時間帯で、点差がどうで、どのようなシチュエーションだったから“コール”or“ノーコール”」という風に、一つの判定に対してたくさんの理由付けをできるように心がけたいと思った。

また、ゲームをしながら、2POの新しいメカニクスの中で福岡氏自身も難しいと感じる場面があるとおっしゃっていた。ゲームの中で、より見やすい位置はどこか、どのように展開したらどこが一番いいポジションなのかを、常に考えながらしているとおっしゃっており、このような姿勢も学ばなければならぬと感じた。

## 全体を通しての感想

今回、九州中学総体に派遣させていただき、大変勉強になりました。特に、決勝戦という舞台の中で、福岡氏からレクチャーをしていただきながら審判ができたことが大きかったです。S級の審判員がどのようにゲームを感じ、何を考えて判定しているのかを目の前で見ることができ、このように考える“訓練”を県内のどのゲームでも続けていくことが大切だと感じました。

最後に、このような機会を与えて下さった県審判委員会や、運営等さまざまな場面でお世話をして下さった福岡県審判部の方々に感謝申し上げます。第47回九州中学校バスケットボール大会の報告といたします。